

「令和7年度 中嶋洋若手研究者海外派遣支援事業」の支援にかかる御礼

弘前大学被ばく医療総合研究所では、染色体解析による放射線の生物学的線量評価に関する様々な解析技術の研究に励んできました。放射線障害の程度を予測し、治療計画の立案や障害予防に役立てる上で、極めて重要な生物学的線量評価は、60年以上もの間、国際的な標準として用いられて来ましたが、細胞培養に必要な時間や、染色体異常の解析に複雑な専門技術が必要とされるうえ、現在、国内外を問わず、細胞遺伝学的線量評価が出来る人材は激減しており、重大な問題を抱えているのが現状です。

私たちは、これらの課題を解決するため、近年発展がめざましい高速自動解析技術や、細胞培養の効率を向上させる技術を研究し、学会や論文発表を行ってきました。生物学的線量評価においては、新たに開発された技術は施設間試験を通じて再検証されることが望ましいとされていることから、共同研究先を探していた折、「令和7年度 中嶋洋若手研究者海外派遣支援事業」の支援を受けることができ、本渡航によって、弘前大学被ばく医療総合研究所と連携協定を締結している韓国原子力医学院を訪問し、研究成果に関して技術交流したうえで、それらについて施設間比較研究を実施できることとなりました。このことにより、私たちの研究成果の再現性の担保とさらなる技術の最適化が期待できます。

また、施設間比較研究によって、得られた成果を国際学術誌へ投稿することで、技術の世界へ展開する基盤を作り、高度被ばく医療支援センター間でのプロトコルの共通化や、アジア地域線量評価ネットワークを通じたアジア地域への還元を図りたいと考えています。

このような研究活動の発展にさせる足がかりができたことに対し、ここに、海外渡航へのご支援をいただきました皆様方に深く感謝を申し上げます。今後もしばらくご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

弘前大学被ばく医療総合研究所
助教・藤嶋 洋平



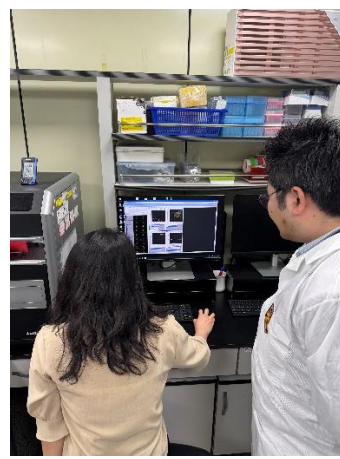
セミナー参加者の集合写真



研究発表の様子



AI 解析に関する議論



イメージングフローサイトメータに関する議論